

「イメージと創造」

(参加人員数) 17名 (とき) 5月15日(木)
(ところ) 霞ヶ関ビル30階 (司会) 東洋信託銀行池
沢調査役

第3回研究会 この会の終局の目的はデザイン用のソフトウエア開発である。そのためには人間の持つ創造性が機械によって開発されるメカニズムを明らかにしなくてはならない。さらにそのためには創造性過程の解明を必要とする。常識的イメージを画く個人からは余り創造物は期待できない。それが期待できるのは夢の中か、一時的狂気となるか、異質の人との交流つまりブレインストーミングをするかである。それらの過程が把握できれば機械によって強制的に常識を打破することが可能となる。知識データベースの探索法を逆にするのもその1つであろう。事象の常識をうるためのABC分析を逆用すれば非常識的発想(XYZ発想とも言えるか)ができる。その意味で新しい観点からABC分析について下記のように第3回研究会を行なった。

(講演) 東京理科大学 牧野都治教授「待行列理論からみたABC分析」 (とき) 6月19日 (ところ) 22
森ビル (参加人員) 8名 (司会) 電々公社宮崎幹事
なお、9月以降の予定は次のとおりである。

9月18日頃 ニュージャージ州立大学院大学ルタガース
大学教授石川 昭「創造性について」 10月16日 東京
理科大学田崎教授「合意形成とファジー理論」 11月20
日 東京理科大学溝口専任講師「自然言語解析と知識デ

ータベース」

●交通問題研究会●

●第2回 5月21日(水) 18:00~20:00, 場所: 東洋経
済ビル, 出席者15名。

越教授の論文「トラック輸送の社会的費用」(エコノ
ミスト54年10月16日)の輪読を行なった。日本と欧米各
国の運輸統計を比較して、日本では人流との相対関係で
トラック輸送の割合が大きい。これはトラック輸送が社
会的費用を外部化したうえ、優遇政策を受けているため
だと結論し、物流体系変革の必要性を訴えている。しか
し外国の統計と比較するに当っては、統計のとり方・産
業構造・生産形態の差異を考慮しないとイケない、特に
物流においては然りだとの意見が多かった。

●第3回 6月21日(水) 18:00~20:00, 場所: 東洋経
済ビル, 出席者17名 テーマ: 内航海運について 講
師: 日通総研 忍田和良氏

内航海運の現状について、需要の時系列動向・品目特
性・地域特性、供給の過当競争・過剰船腹という問題等
の説明があった。鉄鋼・砂利・セメント等大宗荷物の専
用船化、雑貨類のコンテナ船化が今後の課題とのこと、
さらにカーフェリーはエネルギー面で効率が悪く、コン
テナ船を中心に据えて港荷役の合理化・技術開発を進
め、海上雑貨輸送システムとして構築していくのが望ま
しい。また物流は規制を強めるよりも市場機構に委ね
たほうが結局うまくゆくのではないかと結論された。

編集後記▶12回にわたって連載していただいた伏見教授
の企業会計基礎講座は、好評のうち今回で終了。お忙し
いなか毎月書いていただいたこと深く感謝いたします。

▶体育の日にもなで「スポーツのOR-II」を特集。
前編集委員会での企画が好評、再度鳩山氏に企画して
いただきました。▶今回の目玉、川上哲治氏とのインタビ
ューは、同氏の絶大なるご好意と鳩山氏の尽力により実
現。大の巨人ファンの大山、鳩山氏氏は巨人の実情を訪

ねることしきり。また録音、筆記などを手伝ってもら
った事務局平井嬢も熱烈な巨人および川上氏のファンと
のこと、仕事も忘れそうになるほど真剣に川上氏の話に聞
き入っていました。▶川上氏のほとぼりしりである実践をふ
まえた含蓄のあるお話、それに巷間のスポーツ紙ならと
びつきそうなオフレコ情報などを交えた迫真にせまるも
のでしたが、そういう雰囲気もさることながら話題のす
べてを記事で伝えられないのが残念です。(M)

オペレーションズ・リサーチ

昭和55年10月号 第25巻 (新シリーズ第5巻) 10号 通巻238号

代表者 松田 武彦
発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
(電話 03-815-3351~2) ☎ 113

編集人 高橋 繁 郎
発売所 株式会社 日科技連出版社
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 ☎ 151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 650円 (郵送料含) 年間予約購読料 7200円 (郵送料含)

本誌への広告お申し込みは日経弘報社 (563-2241)、明報社 (571-2548) へ